

こどもと若者の意見を市政へ 取り組みを紹介します



☎ こども政策課 ☎027-212-0883

こども基本条例の施行を受け、こどもや若者の視点を大切に、市政に反映させるため、さまざまな方法で意見を聴く取り組みを進めています。



「こどものまち前橋こども・若者会議」を始動

こどもの笑顔があふれるこどものまちの実現に向け、こどもや若者の視点を尊重し、意見を聴き、対話しながら施策を共に進めていく「こどものまち前橋こども・若者会議」。6月6日に今年度第1回の会議を開催。15人のこども・若者委員を委嘱しました。

今年4月のこども基本条例の施行を受け、より若い世代の意見を市政に生かすため、高校生世代の委員を募集。高校生世代のこども委員9人、大学生世代以上の若者委員6人の15人体制で活動しています。



●これまでの取り組み

令和6年度に「こどものまち前橋若者会議」を設置。大学生の若者委員7人で意見交換やこども向けワークショップの運営に参画し、こどもの意見の反映に取り組んできました。

●今年度の活動内容

11月20日の「こどもの権利の日」を広く知ってもらうため、SNS動画の作成や啓発イベントの企画に取り組めます。また、こども計画の進捗評価などについても意見を出し合いながら検討します。

こどもの参加 MOTTO メールに登録を

こどもの意見を市の取り組みに生かすため、ワークショップやアンケートなどの情報をメールで届ける「こどもの参加 MOTTO メール」を開始しました。登録すると意見聴取の案内や募集情報が届きます。「まちのことを考えてみたい」「自分の意見を伝えてみたい」そんな皆さんの登録をお待ちしています。

☎ 本市在住・在学・在勤で、4月2日時点で9歳以上18歳未満の人（小4～高3相当）



登録は
こちらから！

歴史に思いをはせる一夜 酒井氏を称える雅楽の演奏会

☎ 酒井雅楽頭家管弦講の夕べ運営委員会事務局
☎027-221-4977（平日9時～16時）

酒井雅楽頭家管弦講の夕べを開催します。江戸時代に前橋藩主を務めた酒井雅楽頭家。前橋の町割りの基礎は、9代約150年にわたる酒井雅楽頭家による統治によって築かれました。その功績を称え、歴代藩主が眠る龍海院の酒井氏歴代墓地を発信するため、龍海院本堂で日本を代表する雅楽師・東儀秀樹さんのコンサートを開催します。

☎ 11月7日(土) 15時～17時30分
☎ 一般、100人（抽選）

¥ 5,000 円
☎ 当選ハガキ

☎ 8月31日(月)までに往復ハガキで（1人1通）。往信用裏面に参加希望者全員（2人まで）の住所・氏名・電話番号、返信用表面に代表者の郵便番号・住所・氏名を記入し、〒371-0025 紅雲町二丁目8-15・龍海院内酒井雅楽頭家管弦講の夕べ運営委員会事務局へ



湯けむり国スポ・全スポぐんま 開催決定イベント

☎ 国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会市準備委員会事務局
☎027-898-6005

国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会「湯けむり国スポ・全スポぐんま」の開催が、7月15日に正式に決定しました。本県での開催は、昭和58年のあかぎ国体以来46年ぶりです。これを記念し、開催決定イベ

GUNMA 2029

湯けむり国スポ・全スポ

ントを開催します。競技体験や本県ゆかりのタレント、アスリートによるトークショーなど、さまざまなステージ企画を実施します。

☎ 8月11日(火)

☎ けやきウォーク前橋1階けやきコート（文京町二丁目）



地域とつながる 前橋工科大学 ～暮らしを支える工学～

☎ 前橋工科大事務局 ☎027-265-0111

Vol. 2 建築・都市・環境工学群

私たちの暮らしは、道路や橋、水道、ビル、住宅、身の回りの製品など、普段は意識しない多くの技術で支えられています。建築・都市・環境工学群では、こうした「暮らしを支える工学」を3つの視点で学びます。

学生は、学群共通で環境・力学・図学などを学んだ後、土木・環境、建築都市、工学デザインの3つのプログラムの専門分野を学びます。

土木・環境プログラムでは、道路や橋、上下水道などの社会基盤を支える技術を学びます。また、地震や豪雨などの災害に備え、安全で安心して暮らせ

る地域づくりにも取り組みます。

建築都市プログラムでは、住宅や学校、図書館などの建築物の設計に加え、地域の特性を生かしたまちづくりや景観形成を学びます。人が快適に暮らせる空間を、設計とマネジメントの両面から考えます。

工学デザインプログラムでは、身の回りの製品や住環境を、より使いやすく豊かにするためのデザインを学びます。人の視点に立ち、生活の質を高める工夫を形にしていきます。

卒業生は、インフラ関連企業や住宅・建設会社、設備・製造業のほか、暮らしに身近な製品を扱う企業など、幅広い分野で活躍しています。より専門性を高めるため、大学院へ進学する学生も少なくありません。他地域の大学で学んだ後、本学大学院へ進学し、その後、県内自治体に就職した人もいます。

3つのプログラムはいずれも、それぞれの立場から地域や暮らしを支えることにつながっています。

今回は、情報・生命工学群の紹介です。お楽しみに！

